

よべひ 寄る辺に灯をともそう！

会報 No. 4
2013年11月

総務省が2013年の7月12日発表した就業基本調査では、非正規社員が2000万人を超え、比率も38%と過去最大を更新したとのことです。このような社会では、容易に会社都合による切り捨てから失業し、ホームレス状態に陥ってしまい兼ねません。そのような方々へ「自己責任」や「自助努力の欠如」という言葉を押しつけて良いものでしょうか？

失業や病気など様々な理由によりホームレス状態となった方々の多くは家族との絆を失い、社会との絆も失っています。人は、周りの人と繋がってこそ、生きいきとした人生を歩んでいけます。失った人との“絆”は、また人によって回復されるのではないかでしょうか。誰もが、話を聴いてくれて、一緒に考えてくれる人を必要としています。

会長 井手義美



◇活動を始めて5年目になりました。

私達が活動を始めて5年目になり、公的機関などからの支援依頼の連絡もあるようになりました。「失職し所持金も底をついて自死まで思いつめた人がいます・・」、「就労相談に来ているが家族との絆も切れていて数日食事もしていない人が居ます・・」と緊迫した支援要請を受けることがあり、急ぎ出向いてお弁当や数日分の食糧支援や宿泊所の手配などの緊急支援をします。公的な援助や福祉措置を受けるためには、必要な条件もあり、手続きに時間もかかり、出向いていく勇気も必要です。家族的なアドバイスや橋渡し的役割が私達には求められているように思います。

長崎ホームレスを支援する会

活動の内容

- ◇弁当配り 毎週、水曜日早朝、木曜日の夜に市内数ヶ所で実施しています。
- ◇自立支援活動 路上で暮らす人達に生活面、健康面での助言や必要な情報を伝えたり、生活保護を受けてアパート入居された後も必要に応じて生活向上に向けての支援や就労支援を行っています。
- ◇会議など 例会、自立支援会議（毎月1回）、役員会、総会などを実施しています。
- ◇その他のご協力 済生会長崎病院、長崎掖済会病院、法テラス長崎などのご協力を得て医療受診、法律相談の支援を行っています。
- ◇ボランティア数 会員、準会員、協力者（弁当づくり）を含め、現在40～50名です。

活動紹介

詳しくは当会のホームページでご覧になれます。

<http://www15.plala.or.jp/nagasakihomeless/>

（「長崎ホームレスを支援する会」で検索して下さい）

弁当づくり

木曜夜の弁当配りの為の「手作り弁当」を作っています。カトリック飽ノ浦教会、長崎バプテスト教会、カトリック中町教会、カトリック深堀教会で、毎週1回の弁当配りのために、各教会が月1回ずつ担当しています。

お弁当の材料代は会からの負担ですが、各教会ごとにアイデアを生かしながら、こころを込めて作っています。

「カトリック中町教会」の弁当づくりを紹介します。中町教会の有志と他教会からの協力者で、5～6名の少数民族ながら、毎回レシピをつくり、ベテラン主婦の手際を見習いつつ、教会のキッチンをお借りして、和気合いあいとお弁当づくりを楽しんで作っています。豪華なお弁当とはいきませんが、食べ易さやヘルシーさをなるべく心掛けています。一緒に自分達の分も作り、出来具合の味見をしつつ、代金を次のお弁当の資金に加えています。時には季節の果物などを添えるために。



巡回と弁当配り

まずは“出会う”ことが支援の第一歩です。長崎の路上で生活する人はテントを張ったり、段ボールを張り巡らしたりはしません。出会いを求めて、毎週2回（水曜朝、木曜夜）の巡回とお弁当配りが、私たちの基本となる活動です。夜9時半頃、市内中央部の所定の場所に集合し、前回の巡回や1週間の支援内容の簡単な報告ミーティングを行い、3コースに分かれて出発します。



昼間は、遊技場や大型商業施設や公園で過ごし、夜は目立たない処で野宿をしている、路上生活をしていると思える人に声をお掛けし、お弁当を受け取ってもらいます。また次の週も会うことができると、路上で暮らすようになった“いきさつ”や、家族のこと、仕事のこと、今の体調などを少しづつお聞きしながら、その時々の困り事の相談に乗ったり、路上脱出の手立てを一緒に考えていきます。自ら声高に助けを求めるこをしない、しかし明らかに手助けを必要とする人がいるのです。

2012年度の自立支援活動内容

- ・弁当配り参加 約 650 名
- ・弁当炊き出し参加 約 300 名
- ・生活保護受給支援：10 件
- ・病院への同行支援：13 件

- ・アパート入居支援：7 件
- ・緊急宿泊支援：4 件
- ・居宅訪問：95 回
- ・緊急宿泊支援：4 件
- ・法令違反者支援：10 件 など

2013年度の自立支援活動例



通所施設訓練を経て、D社へ就職を果たしたKさん
(2013年8月)



地域奉仕もしながら元気にアパート生活をおくっておられるMさん。支援者もお訪ねするのが楽しみです。
(2013年9月)



介護サービスの認定調査を受けるIさん
(2013年10月)

【ホームレス支援講演会】

当会では、2013年10月12日に第4回「ホームレス支援講演会」を長崎市立図書館のメモリアルホールで開催しました。

講師は北九州ホームレス支援機構専従スタッフで、日本基督教団直方教会牧師の鈴木しもん氏、演題は「求められる”伴走者”とは」でした。

鈴木氏は、ホームレスとは、「なまけもの？ ⇒ 実は、働きたくても働けない。」、「好きでやっている？ ⇒ 誰も路上生活が好きな者はいない」、「危険？ ⇒ そこにあるのは、上から目線？」、「自業自得？ ⇒ 無責任社会の言い訳」と概観し、社会の偏見を指摘されました。非正規社員の切捨て、「障がい」に対する無理解などにみられる現代社会の「使い捨ての人間観」をあげ、ホームレスとは、社会構造上生み出された人々であると説き、「セイフティーネット（社会保障）」については、申請主義の弊害に触れられました。最後にホームレスにとって、物理的な困窮状



態からの脱出と共に、最終的には精神的な困窮状態からの脱出が必要で、「関係性の回復」が、ホームレス支援の大きな課題であり、そこに求められているのが「伴走支援者」であることを強調されました。



先進地視察研修

2013年9月2日（月）に会員4名で北九州ホームレス支援機構（小倉北区）の視察研修へ行きました。最初に森松常務理事より、「支援機構の活動は、3つの段階に整理され、いのちを守る基礎的支援（炊き出し、物資提供、保健・医療支援、人権保護など）の第1段階、相談支援、自立支援住宅の提供などの第2段階、そして、ホームレスを生まない社会の形成などの第3段階に整理している。」と説明があり、これまでに約1,600～1,800名の自立を支援してきた歴史と実績に圧倒されました。次に、自立支援センターの山田センター長より、金銭管理サービスや、保証人バンクの利子を原資とした貸付金サービス等について説明をお聞きしました。

北九州でも、路上からアパートへ入居された方のうち、一人で自立が困難な方の生活を応援することは難しく、たとえ裏切られてもずっと寄り添っていくことが必要との姿勢に改めて感動を受けました。



支援のお願い

当会は、皆様のご協力とご寄付によって支えられ、活動しております。お一人々にこころから感謝申し上げます。

[寄付金]

次のような活動費に使わせて頂きます。

- | | |
|---------|-------------------------------|
| ・弁当作り | 食材費 |
| ・生活支援 | 防寒用品（肌着、衣料品等）、生活用品費、食糧品の緊急支援費 |
| ・緊急宿泊支援 | 一時宿泊費 |
| ・その他 | 講演会開催、広報チラシ作成などの啓蒙活動費 |

[物品の寄付]

次のような物品のご寄付をお願いします。

- | | |
|------|--------------------------|
| ・衣類 | 防寒着、ズボン、ジャンパー、下着、靴下、寝袋など |
| ・日用品 | タオル、歯ブラシ、ヒゲソリ、ホッカロンなど |
| ・その他 | テレfonカードなど |

※物品のご寄付は、ご寄付の前に下記のお問い合わせ先までお知らせください。



ボランティア募集

とくに昼間に活動して下さるボランティアの方を募集しています。
下記へお問い合わせください。ご参加お待ちしています。

お問い合わせ先

事務局 井手義美

- ・携帯：080-2714-8574
- ・携帯メール：nagasaki.homeless@docomo.ne.jp